

萬葉集略解

十七下

二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	和書門
冊	架	函	號	類	

二〇	二〇	二〇	二〇	和書
冊	架	函	號	類

内閣文庫	
番號	和 20435
冊數	30 (25)
函號	263 42



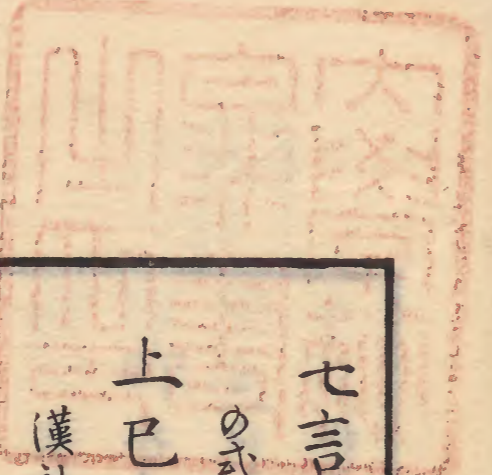
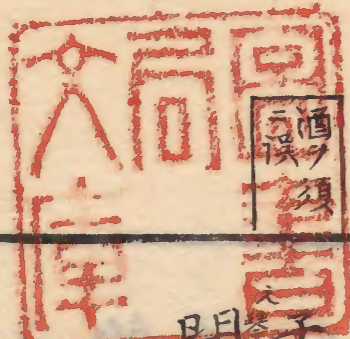
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





道ヲ趙
ニ誤

七言晚春三日游覽一首并序

瓶の上とて五言とて七言とて

の式、唐、宋、元、明、清、の

淺草文庫

上巳名辰暮春麗景桃花照臉以分紅柳色含苔而競綠

漢禮儀志上巳禊飲の事云はよるが三日を用るも上巳といひるる

る之名辰ハ佳節なりけり同日ハ含苔ハ含黛ハ含眉のほろろとて

松浦河原ハ柳葉於眉中發桃花於頰上とてふりてはほろろとて

子時也携手曠望江河之畔訪酒迥過野客之家既而也

閑罇得性蘭契和光 訪酒とて訪傾は誤れり元唐を訪酒とて、唐酒を

いふりちるん過之唐を過とも、是れ誤りて過の字ちるん、葉契ハ易の如葉

の字よりちるん同心の契とて、和光ハ光子の字とて、ハ左の契とて、

嗟乎今日所恨德星已少歟若不如寂含章何以攄逍遙

之趣忽課短筆聊勒四韻云爾 德星ハ吾の陳寔荀淋とて、人の

あつて、賢者の集つるうへ、おぼつたの一人おはさぬをあらわすうて、己を恨
といふ、和寂ハ陸機ガ文賦也、和寂莫而求音といふより、さしていひあつた
とて、道遠之趣ハ、下集しむといふ、道とて趙の法

餘春媚日宜怜賞、上巳風光足覽遊、柳陌臨江縵、袿服桃
源通海泛仙舟、雲墨酌桂三清湛、羽爵催人九曲流、縱醉
陶心忘彼我、酩酊無處不淹留、

よきねといふ、縵ハ注文の繁采色也といふ、袿服ハ文選注の謂盛服也といふ、
桃源ハ西の仙境といふ、雲墨ハ酒墨之、詩の金罍の注も、雲墨の
意より、ゆ、酌桂ハ謝惠連の雪賦の酌桂酒といふ、三清ハ周礼の天官酒
正の辨三酒之物といふ、三曰清酒といふより、又三月の清明といふ
といふ、羽爵ハおほ羽觴といふ、九曲流ハ、あつた、まはる、流れのみ、
杯の注は、酒といふ、陶心ハ陶ハ和樂顔と毛詩の注も、忘彼

万解十七下

我ハ宿まのちちとさく、サハけらるゝ、信白ハ、かこまらるゝ、其の延と、梅と、松と、
三月四日大伴宿禰池主の、い、此より、おぼつた、と云標、
昨日述短懐、今朝汗耳目、更承賜書、且奉不次、死罪謹言、
昨日ハ四日のより、三、述短懐の詩を、他といふ、それと、吾日乾、
マ、より、述ハ、おぼつた、更承賜書といふ、おこせ、い、述、
の、序ハ七步成章といふ、より、さ、我、の、ま、ま、と、信、の、卑、下、
且奉不次といふ

不遺下賤、頻惠德音、英雲星氣、逸調過人、智水仁山、既醞
琳瑯之光彩、潘江陸海、自坐詩書之廊廟、騁思非常、託情
有理、七步成章、數篇滿紙、

徳者莫遣、英ハ白雲、皆毛詩の
わ、英、雲、星、氣、古、本、英、雲、星、送、といふ、れ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
の、も、れ、さ、さ、さ、智、水、仁、山、ハ、論、語、よ、れ、了、湖、中、之、琳、瑯、と、世、説、よ、り、人

毛乎
ノ誤

才よこふ、潘岳陸機又才六朝よるるき文人あり、江海ハ才のよき者
ありしる、中詩書、廊廡ハ、たよ身と道藝の中あり、くもれぬ
たよ七歩ハ魏の曹子建あり、文作のり、やうたうをり、
巧遣愁人之重患、能除戀者之積思、山柿詩泉、比此如茂、
彫龍筆海、粲然得看矣、方知僕之有幸也、敬和歌其詞云
哥泉ハ、ひさしくあつ、つよき、つよ、此如茂ハ人まる、若く、及ばぬ、
彫龍ハ、史記よる、文彩のこまやのなる、筆海ハ、李善、上表、汲冢
之筆海といふ、粲然ハ、あつ、やうたうをり、
憶保枳美能、彌許等可之古美、安之比奇能、夜麻野佐婆良
おほきみの、みことか、こみ、あ、びきの、やまぬさ、はら
受安麻射可流、比奈毛乎、佐牟流、麻須良、表夜、奈爾可、母能
も、あまご、のる、ひさを、さむる、ますらを、や、あふ、もの

万解十七下 二

余余
ノ誤

良下之
久ノ誤

毛布安乎、爾余之、奈良治、伎可欲、布多麻豆、佐能都、可比多
もふ、あを、に、よ、なら、ぢき、の、よ、ふ、たま、づき、の、つ、の、し、
要求也、己母理、古非、伊伎豆、伎和多利、之多毛、比余、奈氣可
え、め、や、こ、も、わ、こ、ひ、い、き、づ、き、わ、り、し、し、ひ、ま、ま、げ、の
布和賀勢、伊爾之、弊由、伊比都、藝久良、之餘、乃奈加波、可受
ふ、わ、の、せ、い、ふ、し、へ、ゆ、い、ひ、つ、ぎ、く、ら、く、よ、の、な、の、ハ、の、す
奈枳毛能、賀奈具、佐牟流、己等母、安良牟等、佐刀妣等、能安
な、き、の、の、あ、ご、さ、む、る、こ、と、も、あ、ら、む、と、さ、と、び、と、の、あ
禮爾都、具良久、夜麻備、爾波、佐久良、婆奈知、利可保、等利能
れ、よ、つ、ぐ、ら、く、や、ま、び、ふ、ハ、さ、く、ら、む、あ、ち、わ、の、か、ど、の、
麻奈久之、婆奈久、春野爾、須美禮、乎都牟等、之路、多倍、乃蘇
ま、な、く、し、ば、な、く、さ、る、の、よ、す、み、れ、を、つ、む、と、し、ろ、く、一、の、そ

頂次
誤

泥牟利可弊之久禮奈為能安可毛須蘇妣伎牟登賣良波
でもウウーくれあるのあらしさるびきをせめらハ
於毛比美太禮底伎美麻都等宇良吳悲須奈里己許呂具
おしひみだれてきみまつとららごひすあやこくろく
志伊謝美爾由加奈許等波多奈由比
しいぞみよゆあことハたあゆひ

やまのさるるまハ山路不懐心室をさ此奈毛の毛ハ平のほろろとて
あふのあふハ何ぞ物思やんきうよハ初めとてこりこいハ初
てあるんばきづきこりハ息衝めてよふと出さるハハ思ひ
余ハ余のほろろひびぎえ良之の之ハ久のほろろとてハ下つ
世の中ハつげさきものよふと出さるの教かく程をまことよやまびハ心
がくげ白よりうらまひとあやこりよまて里人のほろろとてそぞろ

万解十七下 三

のー、其の神ハ仰ぐまきな董るが橋よ初逢さるるどー、ころろとてハ
くりさるま考のおれまあー、ころろとてハ此ハ、此十三前極の末のま
りけくまこゆ人あつげ事考棚知考一あしたるこらび、此九考と
たさーまてとあたまハいつれハ一語ちるどー、其仲ニ由比ハハさる
伊比ふやハ一どたまつてとてさるるどー、室をさるん此敷のたさとて
司考たな知とてさるるよ、この由比とてさるるハハ、由比ハ思れ
ちるどー、十三の考の棚知も必たるれとつべき語の勢もさく許等波ハ
集申こさけハこらハ、古今集よこらハ、さるるを殊とてたさるれハ
詳さるるハ、たさのやうとてさるる、さるるハ、さるるハ、さるるハ、
さ、やうよんゆよんゆとてさるる、十三の考さるるハ、人ハ考さるるハ、
よ、こらさるるハ、さるるハ、世の中ハ、教さるるハ、里人ハ、さるるハ、
考さるるハ、さるるハ、さるるハ、さるるハ、さるるハ、さるるハ、

都追宿夜於知受伊采爾波見禮登宇都追爾之多太爾安
つぬるよおちぢいめみれどうつみし たがみあ
良禰婆孤悲之家口知弊爾都母里奴近在者加弊利爾太
らねばこひしけくちへもつもせぬちのらばがつりみど
仁母宇知由吉底妹我多麻久良佐之加倍底禰天蒙許萬
おもうちゆきそいもがたまくらさうつてねてもこま
思年多麻保己乃路波之騰保久関左閉爾弊奈里底安禮
しをたまほこのみちいとほくせきさへよへなりてあれ
許曾與思惠夜之餘志播安良武曾霍公鳥來鳴年都奇爾
こそよーをやーよーハあらむぞほとぎさきあのんつきよ
伊都之加母波夜久奈里那年宇乃花乃爾保弊流山年余
いつしのもをやくふりまんうのえあのおかつるやまをよ

万解十七下 七

曾能未母布里佐氣見都追淡海路爾伊由伎能里多知青
そのこもよアさりみつあよこぢいゆきのあちあを
丹吉奈良乃五家爾奴要鳥能宇良奈氣之都追思多戀爾
によあらのわぎへぬえどアのうらあけしつささひよ
於毛比宇良夫禮可度爾多知由布氣刀比都追吾年麻都
おもひうらおれうどふとちゆふけとひつあをまつ
等奈須良年妹年安比底早見年
とあすらんいもをあひてもやまむ

心おやどくこれど心か回く副とて天智紀童謡たまふぬくとき
於野見をふぬくともとこまつたあまゆ花のぬとくめぐりめぐ
しあひんぐくく早ふりあくりそ苦しとむかすのそあふあ
りよん九洗波山雉舞舎のあふくあめがくまをそとあふあ

あしびきのやまきこありてふけどころゆるけはらめふみえけり

山とすまう鳴りて遠くをいへん

春花能宇都路布麻泥雨相見禰婆月日餘美都追伊母麻
都良牟曾

をるばあのうらよまやんあひとねづきひよみつふりまつらんぞ

うらよのあひよこつはねぞつてん

右三月二十日夜裏忽兮起戀情作大伴宿禰家持

立夏四月既經累日而由未聞霍公鳥喧因作恨歌二首

作恨ハトよまぢれるの

安思比奇能夜麻毛知可吉乎保登等藝須都奇多都麻泥
爾奈仁加吉奈可奴

あしびきのやまきこありてふけどころゆるけはらめふみえけり

つぎとつまがたハ三月のつちよ四月の節よ入るるをり之あふ立夏とていふれん今
ついでとつちの朝日よかぎれん古ハさよあふん

多麻爾奴久波奈多知婆奈乎等毛之美思己能和我佐刀
爾伎奈可受安流良之

たまれぬくをあしちばなをことせりみこのつとにきあのぶあふら

とつちのつちハ色しあふん契伴三越中もれハ柑敷らくさきん

霍公鳥者立夏之日来鳴必定又越中風土希有橙橘也
因此大伴宿禰家持感發於懷聊裁此歌 三月二十九日

和名抄橙 安倍太 知波奈 似袖小也とも、三月廿九日のよと本本初とせり、古本小字

よわくつふよる

二上山賦一首 此山者有射水郡也

今本此山とての八字とわらとせり、古本
小字とてよりし、有ハ在の邊賦とせりハ名を尋のよと下ゆいゆ賦

一首の下并短哥とよぶ

伊美都河泊伊由伎采具禮流多麻久之氣布多我美山者
いみづのうもいゆきめづれるたまきりげふごのみやまハ
波流波奈乃佐氣流左加利爾安吉乃葉乃爾保弊流等伎
はるもあのさけるさかりふあきのそのふほつるとき
爾出立底布里佐氣見禮婆可牟加良夜曾許婆多敷刀伎
にぞたちてふりさければかんがらやそこばたふとき
夜麻可良夜見我保之加良武須賣加未能須蘇未乃夜麻
やまのらやみのほーのらむとめづみのとそみのもやま
能之夫多爾能佐吉乃安里蘇爾阿佐奈藝爾餘須流之良
のまぶしみのさきのあまそふあさあきまよとるしら
奈美由敷奈藝爾美知久流之保能伊夜麻之爾多由流許

万解十七下十

あみゆふたなぎふみちくるまほのいやまーふたゆるこ
登奈久伊爾之弊由伊麻乃乎都豆爾可久之許曾見流比
とちくいふーゆいまのをつよあくるこそみるひ
登其等爾加氣底之努波采
とごとくにのけてーぬバめ

いゝ愛語ゆきめづれるはのめさるそこびをこぞくまきこと
ま二國づうのこれいあぬ神づのこれたふまきとあまの神の
まそみの山のこ友奇はいつーおちあゆみをあつよ神代ま神の
山川を愛びひさるのまをののまそこの進むく愛るさうん
と翁の流えんと極のなうづやまそそみハ流は神のまを廻の四居と
いつるぬく二上山の藤のまぶ谷といふささるんその神ハ山と神と
してそ山のまをこのまぶにといふまきかくいつるまんまぶにハ二上

我加勢故波多麻爾母我毛奈手爾麻伎底見都追由可牟
牟於吉底伊加婆乎思

わのせこいたまふしのもちてよまきそみつゆいんとおまそいおばを

そいおまおのころあし加和のほろく和我とそろぐかくト上はほろ

ちうんいおばいゆばん

右守大伴宿禰家持以正稅帳須入京師仍作此歌聊陳

相別之歎 四月二十日

四月二十日のまふしをかをひる古が小字ちうん小あふ

遊覽布勢水海賦一首 并短歌

此海者有射水郡舊江村也

有在のほろ

物能乃敷能夜蘇等母乃乎能於毛布度知許已呂也良武等字
ものふのやそとものをのちよどらころやらんと
麻奈米底字知久知夫利乃之良奈美能安里蘇爾與湏流之夫多
まぢめてうちくちぢあひのちらまこのありそふよするまふた

爾能佐吉多母登保理麻都太要能奈我波麻須義底字奈
ふのせきたもとちあまつごちのちあはまそぎてうま
比河波伎欲吉勢其等爾字加波多知可由吉加久遊岐見
びがハきよさせごというらはたちかゆきらくゆきこ
都禮騰母曾許母安加爾等布勢能字彌爾布禰字氣須惠
つれどもろこもある小とふせのうみふふねうけすを
底於伎弊許藝邊爾已伎見禮婆奈藝左爾波安遲牟良佐
ておまべこぎへふこぎこれバあぎさまハあぢむらさ
和伎之麻末爾波許奴禮波奈左吉許已婆久毛見乃佐夜
わきままし小ハこぬれをなさきこばくもみのさや
氣吉加多麻久之氣布多我彌夜麻爾波布都多能由伎波
けきあたまよくーげふさのみやまにそふつこのゆきハ

山字より

敬和遊覽布勢水海賦一首并一絶

と一絶といふこと

布治奈美波佐岐底知里爾伎宇能波奈波伊麻曾佐可理
ふぢ奈こハさきてちりみきうのをあハいまぶさのり
等安之比奇能夜麻爾毛野爾毛保登等藝須奈伎之等與
とあーびきのやまよもぬよもほそぎもあきしとよ
采婆宇知奈妣久許己呂毛之努爾曾己宇之母宇良胡非
めばうちあびくくくろもーぬふそをーもうらこハ
之美等於毛布度知宇麻宇知牟禮底多豆佐波理伊泥多
しみとおもよどちうまうちむれてたづさをりいでこ
知美禮婆伊美豆河泊美奈刀能須登利安佐太藝爾可多

底元五
三作下向

万解十七下 十四

ちこれバいみづがそとあとのさどりあそあぎよかハ
爾安佐里之思保養底婆都麻欲比可波須等母之伎爾美
にあさこしとほみてバつまよびのそすとこまよそ
都追須疑由伎之夫多爾能安里蘇乃佐伎爾於枳追奈美
つ、さぎゆきとぶたふのありうのさきよおきつあこ
余勢久流多麻母可多與理爾可都良爾都久理伊毛我多
よせくるたまもかよよりよのつらよつくりいとがこ
采底爾麻吉母知底宇良具波之布勢之美豆宇彌爾阿麻
めてよまきもちてうらぐハよせのみづうみふあま
夫禰爾麻可治加伊奴吉之路多倍能蘇泥布理可邊之阿
ふねふまのぢのいぬきしるこへのそでふまのハあ
登毛比底和賀已藝由氣婆乎布能佐伎波奈知利麻我比

許武吉欲伎波麻備乎

まらまみのよせくろたまもよあひびもつぎいてみよんちよままびと

たまよハむ藤へよあひびもハ我世久しき間とりよたまびハ後方へ

右掾大伴宿禰池主作 四月廿六日 追和 此七字ハ本を初とせり

古今小字よちり

錢ヲ銭
誤

四月二十六日掾大伴宿禰池主之館錢稅帳使守大伴
宿禰家持宴謠并古歌四首 古今并下五字あり

多麻保許乃養知雨伊泥多知和可禮奈婆見奴日佐麻禰

養孤悲思家武可母

たまぼこのちいどころわれあひみぬしうまはひんいーかんこのり

たまねハ敷多と院出佐の下ハ本等の字もハ元廣ハよまきあやう

一云不見日久彌慮之家牟加母

万解十七下 十六

搦ヲ極
誤

佐下ハテ
等字有
ハ誤

右一首大伴宿禰家持作之

和我勢古我久爾弊麻之奈婆保等登藝須奈可牟佐都奇

波佐夫之家牟可母

わがせこのくあまあほほろぎやあらしきまハせーづーけんこのり

稅帳使よりなる因のなきいふやまはと

右一首今内藏忌寸繼麻呂作之

安禮奈之等奈和備和我勢故保登等藝須奈可牟佐都奇

波多麻乎奴香佐禰

あれあるとまらびわのせこちんキチカボのちんまハたまよびのちね

わらうしとく俵さるるれんちんまよまほともよまけいりてぬの

さねいぬのせをせりて

右一首守大伴宿禰家持作

石川朝臣水通播歌一首

和我夜度能花播乎波奈其采爾多麻爾曾安我奴久麻多
婆苦流之美

わのちどのこちたちばなをばなごめいたまむであのくまじくちりま

これハ古のまがうたのうまけいこれハ此時通しうまうんたごめハ

伊勢が根ごめは風のゆきとさうんとよあるこちの河のゆく花をふ

とつこ

右一首傳誦主人大伴宿禰池主云爾

守大伴宿禰家持館飲宴歌一首四月二十六日

美夜故弊爾多都日知可豆久安久麻底爾安比見而由可
奈故布流比於保家牟

みやこべふたつひらうづくあくまがふあひこてゆのなこしひおちらん

めてはなる日多のらん今晩までお忍びゆるとん

立山賦一首并短歌

此山者有新河郡也

和名抄新川

尔布加波有ハ在の語

此山あま多知やまといふと、たててゆといふ

安麻射可流比奈爾名可加須古思能奈可久奴知許登其

あまがのるひあふなうくはこいのちのくぬちことご

等夜麻波之母之自爾安禮登毛加波波之母佐波爾由氣

とやまハールもキバ小あれどもかちールもさを小ゆけ

等毛須賣加未能字之波伎伊麻須爾比可波能曾能多知

どもむめがいのうしをきいませにひのそのうち

夜麻爾等許奈都爾由伎布理之伎底於婆勢流可多加比

やまふとくちつよゆきふかりきておむせるかこのひ

河波能伎欲吉瀬爾安佐欲比其等爾多都奇利能於毛比

多知夜麻雨布里於家流由伎乎登已奈都爾見禮等母安
可受加武賀良奈良之

たちやまよふりおろるゆきをともこまつまこれいあうまかんがらふり

あうままらふらんかんがらふりいあうまらふらんかんがらふり

可多加比能可波能瀬伎欲久由久美豆能多由流許登奈
久安里我欲比見牟

かこののののせきよくゆくこのたゆるとあくあわがよしん

あうまのめくくろふりあうま

四月二十七日大伴宿禰家持作之

敬和立山賦一首并二絶

阿佐比左之曾我比爾見由流可無奈我良彌奈爾於婆勢
あやいせいさひらびみゆるかんあがらみあまおいせ

流之良久母能知邊乎於之和氣安麻曾曾理多可吉多知
るいらくものちへをおしわけあまぞりたのきたち
夜麻布由奈都登和久許等母奈久之路多倍爾遊吉波布
やまよゆあつとわくこともなくとスこへよゆきばよ
里於吉底伊爾之邊遊阿理吉仁家禮婆許其志可毛伊波
りおきていふへゆありきふければこびのいそ
能可牟佐備多末伎波流伊久代經爾家牟多知底為底見
ののんさびたまきいさくよ一ふんたちくめてこ
禮登毛安夜之彌禰太可美多爾乎布可美等於知多藝都
れどもあやしみねたのみたふをふのみとちたぎつ
吉欲伎可敷知爾安佐左良受綺利多知和多利由布佐禮
きよきかよちふあせくらさきりたちこわゆよせれ

婆久毛為多奈毗吉久毛為奈須已許呂毛之努爾多都奇
バクしゐたふびきくしゐあすろしぬふたつき
理能於毛比須具佐受由久美豆乃於等母佐夜氣久與呂
りのおしひそぐせぶゆくみづのおともさやけくよる
豆余爾伊比都藝由可牟加波之多要受波
つよふいひつぎゆのんのはしたえすを

おのころはるえやまよりおののきまふいりゆもくそつひよしゆ
府より背向えゆるかんとくういんとやうて神とせういふよおん
ちと名を原する天とるく聳まるといふのなま原よりいふおまぞ
そりハ按之神代紀火進命とぬれそりと川まよればそりり進
みく白雲のそまをいふて天小進よりかくゆをいふくもく
りの進之基一きとむるそりそりいふゆはくありきよんぐハ

在まよるれびいこころハ夢の癡ゆるん三時山の宮き園いこころ
よめたねとてかんさびいたびんとよをさほみとのこのちいよの
あきよまかちよハかいらひ川のせれるあそりハおとよハおとよ
よすい出たそれぞを中よまていつくメはまればあておとよどの
ちとハあきくつおハあきくつおあまといふハあまのくつりいふく
りふんいしああつりいふひこまざといふハハ川のちよりああぬい
多知夜麻爾布里於家流由伎能等許奈都爾氣受底和多
流波可無奈我良等曾
たちやまにゆりおんるしよのそこあつけがやわるハかんまのらとぞ
くどくわるハ不流して車月を伝ふるをいふくくくくくくくくくく
情あるハ神のまをいふて傳ふるをいふくくくくくくくくくく

於知多藝都可多加比我波能多延奴期等伊麻見流比等

れさるきみハあれども。たまぼこの。もちゆえわれハ
良久毛能多奈妣久夜麻乎伊波禰布美古要弊奈利奈婆。
らるもの。たあびくやまをいそねふこ。こえへありあバ。
孤悲之家久氣乃奈我氣牟曾。則許母倍婆許已呂志伊多
こひーけくけのあがらんぞ。そこちへバ。こーろーいた
思保等登藝須許惠爾安倍奴久多麻爾母我手爾麻吉毛
ーほとーぎす。こをみあへぬくたまふも。てよまきこ
知底安佐欲比爾見都追由可牟乎。於伎底伊加婆乎思
ちてあてよひみみつ。ゆうんを。おきていうををー

うまかぎや栴河、かきう、うま、幹、枝、ん、や、そ、つ、の、木、の、い、や、ぎ、く、と、ま、れ、
れ、ま、こ、と、合、え、り、大、伴、氏、の、代、こ、と、よ、う、り、家、持、と、幹、ー、比、ま、と、枝、と
し、て、ま、る、ち、ん、お、や、ど、ハ、同、じ、と、ま、さ、え、ハ、常、勢、か、く、常、勢、か、く、お、か、た、れ

五解十七下 サニ

どハ同ドもふおつれハ。お父の本の若葉よつううて常勢をいひて
比まどあつうとよまあひてこどいハ舎須物言よこあゆの風ハ以下のうの
け子越俗語東風謂之安由不可是也とあり、そこをーのーハ助辯よて
それをとりまんとすらるれおこも、ちハ次の若葉よをを團のこととあり
かちてとりま同ドハ官事をうけまらるてとりまこハおくれこまきハあれ
どハあ、おくれハ左あーハあれどとりまこ、こまあまハ越隔ハけ
のま、んぞハ日くーくおろんとりまこ、そこちへぐそれをあハハ、あ、ぬ、
のあハあハせの約えん、まハ相貫とあり、郭への鳴は樹ハまされハ令
合勢といひ、おまこハ置ハし比まを、おれハををこ
和我勢故婆多麻爾母我毛奈保等登伎須許惠爾安倍奴伎
手爾麻伎底由加牟
わのせこいたまふものちほとぎまてあよあぬまてよまきてゆうん

右大伴宿禰家持贈祿大伴宿禰池主四月卅日
忽見入京述懷之作生別悲兮斷腸萬回怨緒難禁聊奉所
心一首并二絶

安遠雨與之奈良乎伎波奈禮阿麻射可流比奈爾波安禮
あをにゆるならをきをふれあまざゐるひあふハあれ
登和賀勢故乎見都追志乎禮婆於毛比夜流許等母安利
どわがでこをみつゝをればおとひやることもあり
之乎於保伎美乃羨許等可之古美乎須久爾能許等登里
しをほきみのみことゝをすく小のこゝり
毛知底和可久佐能安由比多豆久利無良等理能安佐太
もちてわのくさのあゆひたづとりぶらとりのあさだ
知伊奈婆於久禮多流阿禮也可奈之伎多妣爾由久伎美

ちいふバおくれふるあれやかふしきたびよゆくきて
可母孤悲無於毛布蘇良夜須久安良禰婆奈氣可久乎等
このこひんおもしろやとあらねばおげうくとと
騰采毛可禰底見和多勢婆宇能波奈夜麻乃保等登藝須
とめもかねてみわへせハうのをふやまのほとけさす
禰能未之奈可由安佐疑理能羨太流流許已呂許登爾伊
ねのみしかのゆあさぎりのみごるゝることい
泥底伊波婆由遊思羨刀奈羨夜麻多年氣能可味爾奴佐
ぢいさゆしみとふみやまたおけのこいぬさ
麻都里安我許比能麻久波之家夜之吉美賀多太可乎麻
まつりあがこひのまくとけやしきみかたがをま
佐吉久毛安里多母等保利都奇多婆等伎毛可波佐受

まひ幣こまつりハ 射着とりよきまて親ましむりよ同じ

宇良故非之和賀勢能伎美波奈泥之故我波奈爾毛我母
奈安佐奈佐奈見牟

うらこひしわがせのまこハなてこのたまふしごりああやまやまらん
うらこひしまのきと暮る

右大伴宿禰池主報贈和歌 五月二日

思放逸鷹夢見感悅作歌一首并短歌

大王乃等保能美可度曾美雪落越登名爾於弊流安麻射
杞ほきものとのみうどぞみゆきふるこいとあよおへるあまざ
可流比奈爾之安禮婆山高美河登保之呂思野乎比呂美
かるひまよあればやまたりかをとほしろのをひろ
久佐許曾之既吉安由波之流奈都能左加利等之麻都等

万解十七下 廿五

くさこそまげきあゆせしるあつのをとのわとままつと
里鶴養我登母波由久加波乃伎欲吉瀬其登爾可賀里左
りうのひのとしハゆくのはのきよきせごとふうぐせさ
之奈豆左比能保流露霜乃安伎爾伊多禮波野毛佐波爾
しあづさひのほるつゆどもあきふいたればのもさを小
等里須太家里等麻須良乎能登母伊射奈比底多加波之
とりすだけりとますらをのともいざあひてたのハ
母安麻多安禮等母矢形尾乃安我大黒爾大黒者登之良
鷹之名也
もあまよあれどもやうこのあぶおちとらよ
奴里能鈴登里都氣底朝鴉爾伊保都登里多底暮鴉爾知
ぬすのまごりつけてあさかちいづとあそそゆふがらふち
登理布美多底於敷其等爾由流須許等奈久乎放毛乎知

どりふみとておめごとふゆるすことあくとたをぢんとち
母可夜須伎許禮乎於伎底麻多波安里我多之左奈良弊
しかやまきこれをおきてまたハありがししきまらうづ
流多可波奈家牟等情雨波於毛比保許里底惠麻比都追
るたのハなぐんとそろふハおもひほこりてままひつ
和多流安比太雨多夫禮多流之許都於吉奈乃許等太雨
わくるあひたよたがれたるまこつおきまのことだふ
母吾雨波都氣受等乃具母利安米能布流日乎等我理須
もこれみハつけざとのぐまかあめのよるひをとかりす
等名乃未乎能里底三島野乎曾我比雨見都追二上山登
とふのこをのりてみまぬとそがひ小みつふさぐのやまと
妣古要底久母我久理可氣理伊爾伎等可弊理伎底之波

元前トセ下 一六

びこえてくもがくちかけこいみきと一ウきてま
夫禮都具禮呼久餘思乃曾許雨奈家禮婆伊敷須弊能多
ぶれつぐれをくよいのろこみふけれどいよとべのた
騰伎乎之良雨心雨波火佐倍毛要都追於母比孤悲伊伎
ときをいらにころまひさへもえつおもひこひいき
豆吉安麻利氣太之久毛安布許等安里也等安之比奇能
づきあまりけだしくもあふことあやとあーびきの
乎底母許乃毛雨等奈美波里母利弊乎須惠底知波夜夫
をてもこのもふとふもあもまををををてちはやふ
流神社雨底流鏡之都雨等里蘇倍已比能美底安我麻都
るかのやりろふてるかこまづふとあそへこひのいてあがまつ
等吉雨乎登賣良我伊米雨都具良久奈我古敷流曾能保

ときふをとりめらふいめふつぐらくあぶるそのほ
追多加波麻都太要乃波麻由伎具良之都奈之等流比美
つたのハまつぐえのたまゆきぐらつあしとるひと
乃江過底多古能之麻等比多毛登保里安之我母能須太
のえとぎてたこの一まとびたしとほちあーづものぞ
久舊江雨平等都日毛伎能敷母安里追知加久安良波伊
くよるえ小をとつひもきのよしあてつちかくあらばい
麻布都可太未等保久安良婆奈奴可乃宇知波須疑米也
まよつのだみとなくあらばあぬのうちハそぎめや
母伎奈牟和我勢故禰毛許呂爾奈孤悲曾余等曾伊麻爾
もきあんわがせこねもころふなこひそよとぞいまふ
都氣都流

万解十七下 廿七

つげつる

遠のみこのハ孝三の能書とよりカ、
小おつと結ぶさ、ちうれより程あらば、
なづさひ段出、矢形尾、矢ハ借字より、
うまのへのまの形せ、
新抄焼けるまづ、
毎子之ゆるす、
り古伝へ、
みあ、
あぶ、
れハ柱、
い、

麻追我弊里之比雨底安禮可母佐夜麻太乃乎治我其日
爾母等米安波受家牟

まづのふまひあてあれんもやまづのむすぶのいふかあはづらん

孝九まつぶうまひまてあれやうづあのみまは孝九のう一そ解ぶし一二の

句々金目ふれはこまひく入結あて強うあふふ山田のあがね一つ

日よあれれい度よあはづらんといふまをまづいさ尚別君百ととり

紀は老翁とをちとよあり

情爾波由流布許等奈久須加能夜麻須可奈久能未也孤
悲和多利奈牟

こころよゆるぶこくあくまのやまもろくあくのみやまひわあらん

ゆふよこころあはれまへんまのの山越中地名まづいそらあくハ玉因

所の墨ほるまづい

翹ヲ翹ニ

興ニ情ニ誤ホラ
未ニ誤

右射水郡古江村取獲蒼鷹形容美麗鷲雉秀群也於時
養吏山田史君麻呂調試失節野獵乖候搏風之翅高翔
匿雲腐鼠之飼呼留靡驗於是張設羅網窺乎非常奉幣
神祇特乎不虞也粵以夢裏有娘子喻曰使君勿作苦念
空費精神放逸彼鷹獲得未幾矣哉須臾覺寤有悅於懷
因作却恨之歌式旌感信守大伴宿禰家持 九月二十六日作也

鷲ハ殺也と拙まはせし調試ハまならしハ今せらるるこ搏風ハ莊子

ふよあてこころあはれまへんまのの山越中地名まづいそらあくハ玉因

まづのふまひあてあれんもやまづのむすぶのいふかあはづらん

孝九まつぶうまひまてあれやうづあのみまは孝九のう一そ解ぶし一二の

句々金目ふれはこまひく入結あて強うあふふ山田のあがね一つ

日よあれれい度よあはづらんといふまをまづいさ尚別君百ととり

紀は老翁とをちとよあり

多知夜麻乃由吉之久良之毛波比都奇能可波能和多理
瀬安夫美都加須毛

たちやまのゆきーくらもさひつきのがそのわらせあぢみつのもい

まくりーハハの言のまをてハ解る一宜き言一のハハゆきまてくら

ーハハ踏りーし消るをくとしハめづりえれど、紀子居とらと訓はし

あり又乾とふと訓はしあれハ消る古まハくといふまぢーといふものさ

ハ言はま水増して、まゆる言の鏡よつて、つらハつてと延る

赴參氣比大神宮行海邊之時作歌一首 神名帳能登国羽

昨郡氣多神社より比ハ多の誤り、又帳上誤字もこの

之乎路可良多太古要久禮婆波久比能海安佐奈藝思多
理船梶母我毛

まをぢからたごえくれはくひのうもあさなぎーらあおからもがも

有ハ布ノ誤

登夫佐多底船木伎流等伊有能登乃島山今日見者許太
知之氣思物伊久代神備曾

うさきたてよまぢーるとしよのこのままやまけしれはらるまけ

まもいこよかみびぞ

按ひよえ、とまぢーとて枕詞か、とハ神さびを思きいつり有ハ布の誤

香島欲里久麻吉乎左之底許具布補能可治等流間奈久

神名帳羽昨郡志牟神社あり、まを治ハそこ、和名抄能登羽昨郡羽
昨郷あり

能登郡從香島津發船行於射熊來村往時作歌二首

松總本能の上邊の字あり、い、事十六自肥前国松浦縣美弥

良久崎發船直射對馬渡海より、和名抄能登郡加島、能來

久万
岐

京師之於母保由

かまよめくまきをささぐて、こぶねのかぢとるまふくみやこにおりかゆ
鳳至郡渡饒石河之時作歌一首 和名抄能登国鳳至 ^{不布}志

あつ風とく鳳と誤

伊毛爾安波受比左思久奈里奴爾藝之河波伎欲吉瀬其
登爾美奈宇良波倍底奈

いしあはぶしきくあぢぬふぎいひきよまきせごいひまうへへてあ
みまうへ水之占之、神武紀天皇夏の洲へのまふ、天香山の埴とそて
八十牟冤天の手扶八十枚嚴冤をつとりて、嚴冤を以て丹生の川ふ
況めて占ひませりまふ、そ敷ひの占ちへてまふとて、うへへへへ
と延り、ま十四むさうやまうへへ肩やまきとてあり

從珠洲郡發船還太沼郡之時泊長濱灣仰見月光作歌

行解十七下 三十二

一首 和名抄珠洲頂、太沼郡といふ能登越中ふり、又房本太沼を

治布よゆら治布といふま、藝仲は和名抄を考ふに羽咋郡は太海
あり、延槻河をわたりて羽咋郡の氣多天外言ふ治て、能登郡より
鳳至郡より、それより珠洲よりむりて、又羽咋郡へ還らるるまふ、
まこれに海郷二字を語く沼郡とあせらるるまふといひ、長濱は和名

抄氣登郡長濱 奈加 波万 とて、仰と今作は誤、又房本此作の字なり

珠洲能宇美爾安佐比良伎之底許藝久禮婆奈我波麻能
宇良爾都奇底里爾家里

まのうまあせびらまして、こぎとれはながはまのうらにづきてありまふ

右件詞者依春出舉巡行諸郡當時所屬目作之大伴

宿禰家持 雜令之凡公私以財物出奉者

怨鷺晚吟歌一首

宇具比須波伊麻波奈可牟等可多麻底波可須美多奈妣
吉都奇波倍爾都追

うぐひすはいまへあんとかこまてばかすみたあびきつきいへよつ

かこまつハ片々々待うてさそく片まつふのさこ

造酒歌一首

奈加等美乃敷刀能里等其等伊比波良倍安賀布伊能知
毛多我多尔雨奈禮

なかとみのふとのつとごとしひをうあがいのちしたごめになれ

古一神よなるほハ裔て能よ醸て、も能ちがうなると久ゆ、神代紀大謨
辭以云布汁能理斗とも、神祇令よ中臣宣祝詞とも義解よ、留宣者布
也、祝者贊辭也え、式凡祭祀祝詞者、御殿御門等祭齋部氏祝詞以外諸
祭中臣氏祝詞とあり、あがハ酒と賻物ツカモノふして壽と祈る、能あよなれハ

万解十七下 三十一

ヤシ人あましくよやうとやゆ、されハはへまゝと能あぞ、はがなふこそあれ
とりまきまき、そ人よ對ひてよある也

右大伴宿禰家持作之

皇朝文獻通考卷之...

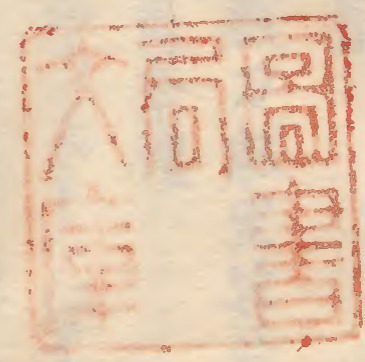
皇朝文獻通考卷之...

皇朝文獻通考卷之...

皇朝文獻通考卷之...

皇朝文獻通考卷之...

皇朝文獻通考卷之...



方解十七下終三十五

